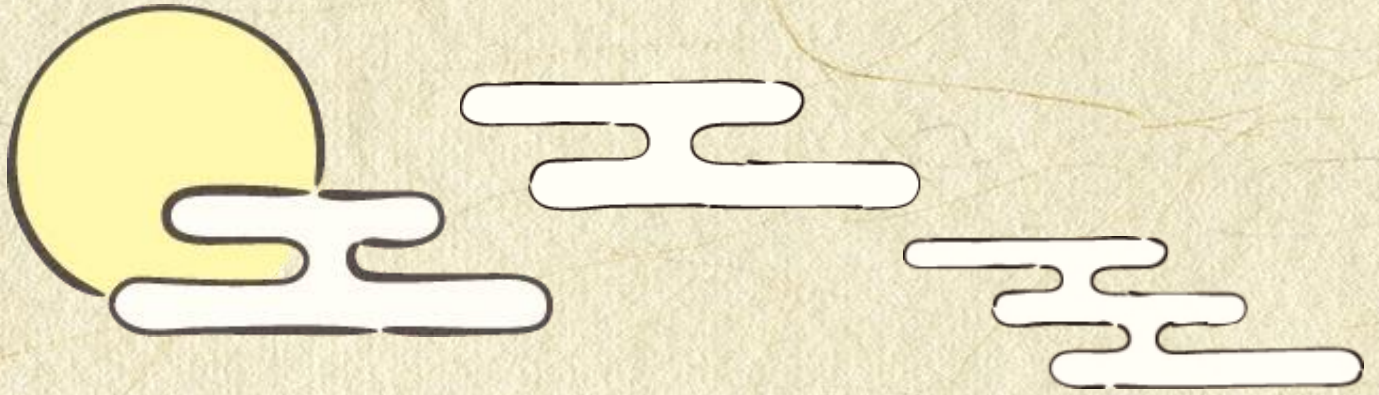


Meridian



第42回有瀬図書館ギャラリー展

うたのせかい —日本人のこころを詠む—



2017.12.18 (月) ~ 2018.3.31 (土)

開催場所：神戸学院大学有瀬図書館

本館2階 エントランス展示コーナー



*開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

今回のギャラリー展は、百人一首カルタや『万葉集』『古今和歌集』の和歌集、
『和漢朗詠集』『湯山三吟百韻』などの歌謡集や連歌を展示しています。
普段は閉架資料として、閲覧が制限されているものです。
この機会にぜひご覧ください。

和歌とは…？

日本固有の歌を意味し、その概念は平安時代の『古今和歌集』の成立により確立しました。

五・七を3回以上繰り返して七で結ぶのが基本形式の『長歌』、五・七・五・七・七の『短歌』、五・七・七を2度繰り返す『凱旋歌』などの定型歌から成ります。そこからさらに分化しながら、日本人に親しまれてきました。

また、和歌の表現方法は物語や日記の心情表現、自然描写に吸収されて、日本の古典文学にも影響を及ぼしました。

百人一首とは…？

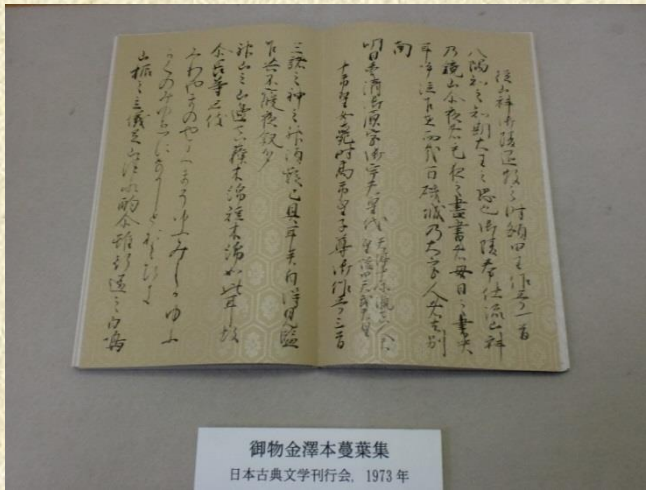
100人の歌人の和歌を1首ずつ選び集めた歌集。カルタとしても用いられている。中でも藤原定家撰といわれている『小倉百人一首』が、有名である。

「小倉」とは定家が歌を選ぶために籠っていた山荘が、京都の小倉山の麓にあったからといわれる。

『小倉百人一首』は、平安時代の歌人を中心に奈良時代から鎌倉時代初期の歌人の秀歌を集めたもので、勅撰集でいうと『古今和歌集』から『続後撰和歌集』までの歌が収められている。恋歌が43首、四季歌が32首あり、艶麗な歌や情趣的な歌、人間劇的な歌などが選ばれている。



展示資料の紹介

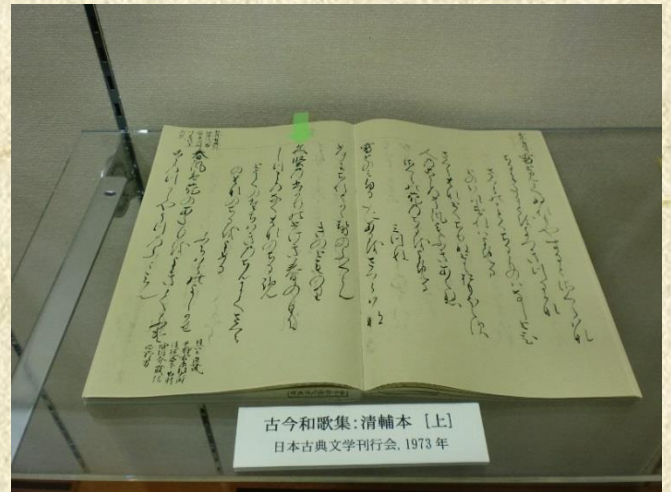


万葉集

奈良時代の歌集で現存する日本最古の歌集。
約4500首の歌が収められ、大伴家持が現在の形に近いものにまとめたとされる。
表記は全て漢字で、その音や訓を利用して巧みに日本語を表すように工夫されており、「万葉仮名」と称されている。

古今和歌集

平安時代初期に成立した最初の勅撰和歌集。
醍醐天皇の勅命によって紀貫之、^{おおしこうちのみつね}凡河内躬恒、
^{みぶのただみね}紀友則、壬生忠岑が撰者として編集した。
歌数は1100首で、全20巻あり、四季の自然の歌と恋の歌がその中心を占めている。
紀貫之が仮名散文で書いた仮名序は、歌論の最初のものとして高く評価されている。



和漢朗詠集

平安時代中期の歌謡集で、撰者は藤原公任。
和歌と漢詩句に優れたものが集められた。
漢詩句の中国作者は、ほぼ唐代の詩人に限られている。日本の作者は、菅原文時・菅原道真・源順が主流を成している。
貴族・武家の学問教養の基本図書にあげられていて和歌・漢詩を問わず後の文学へ大きな影響を与えた。



展示の様子



編集後記

今回のギャラリー展では、日本人に馴染み深い『和歌』をテーマに展示を行いました。昔、カルタで遊んだことがある『百人一首』の訳や高校の授業で出てきた『万葉集』など、馴染みはあるけど内容は詳しく知らなかったものを展示しています。今回の展示を通して、和歌の世界を楽しんでいただければいいと思います。

参考資料

日本大百科全書、デジタル大辞泉、日本国語大辞典、
全文全訳古語辞典、平成ニッポン生活便利帳

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第44号

2018年1月11日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078 (974) 4584

E-mail：pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL：http://opac.kobegakuin.ac.jp/